

森林における生物多様性保全の推進方策 検討会資料



京都学園大学バイオ環境学部 中川重年

適正な萌芽更新を行うことによって里山環境が変化,構成種が変化する

3つの様相が交互に現れることが特徴、20年以上放置すると常緑樹林構成種やモウソウチクが増加してくる。

7-20年



20年以上



1-2年



3-6年



汎出植物

刈跡地植物

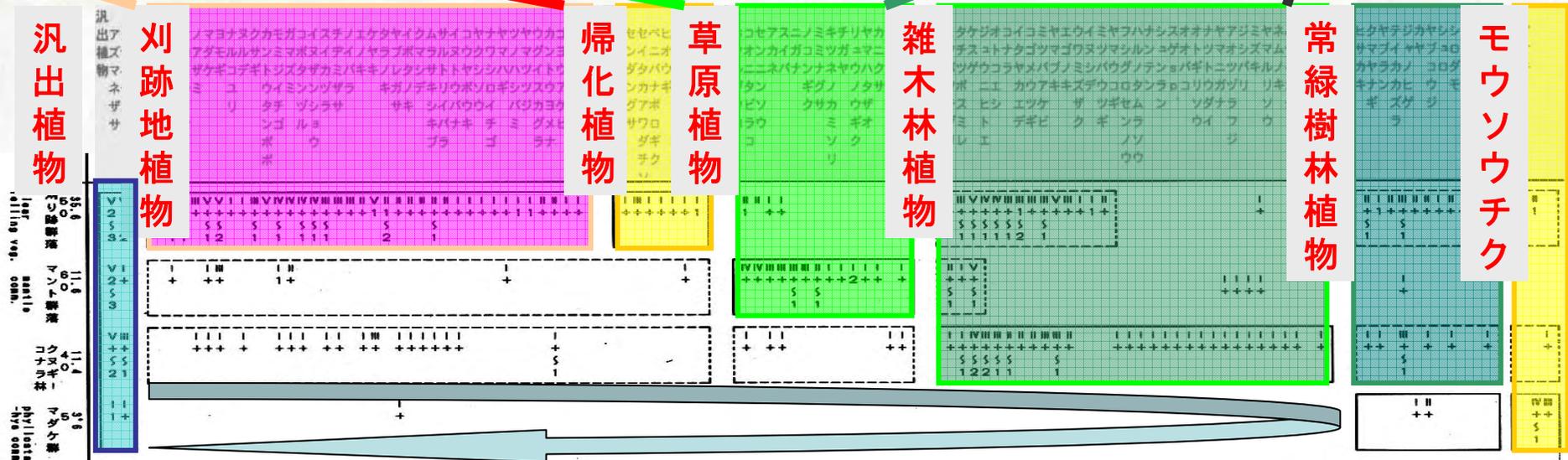
帰化植物

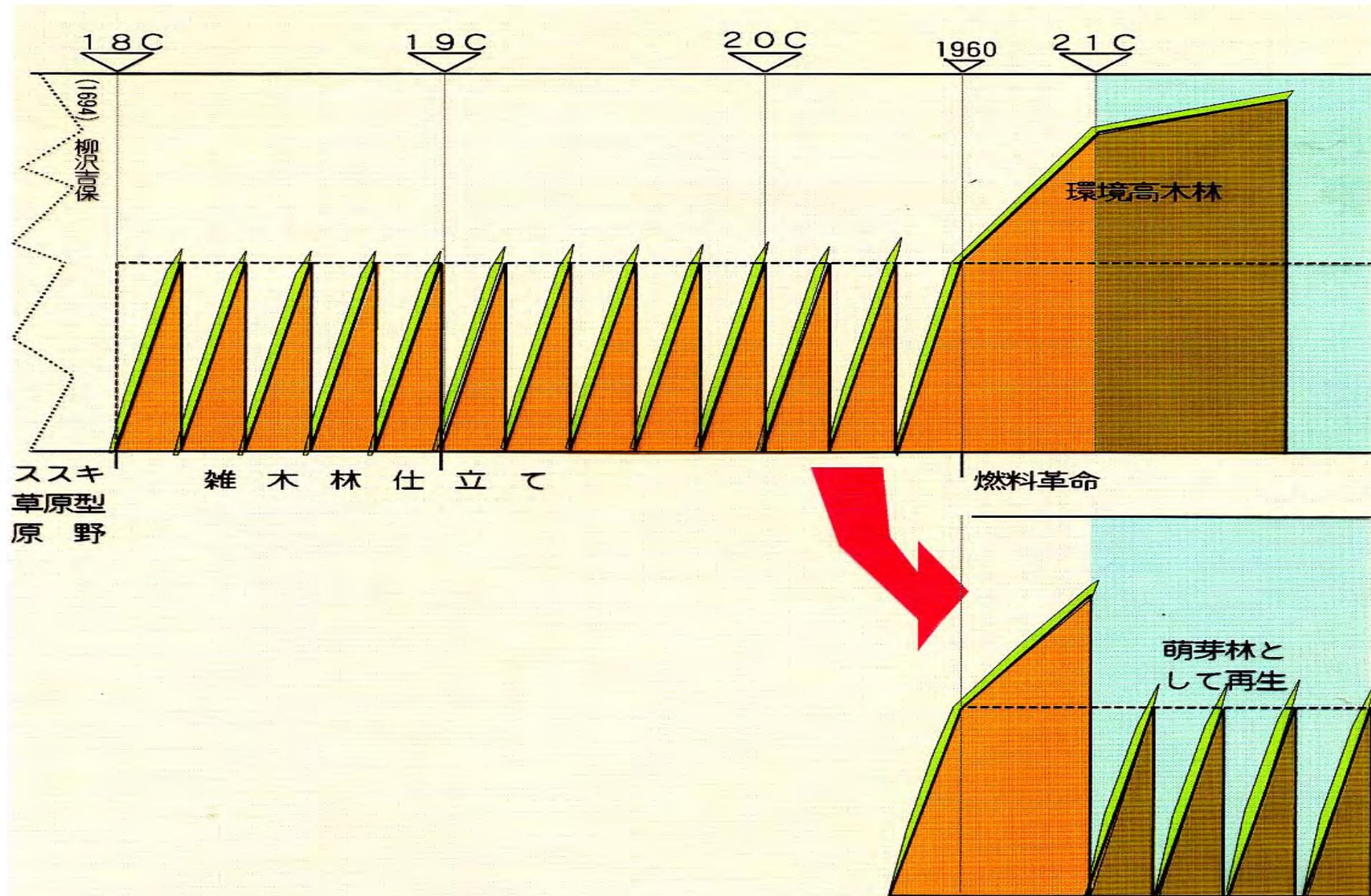
草原植物

雑木林植物

常緑樹林植物

モウソウチク

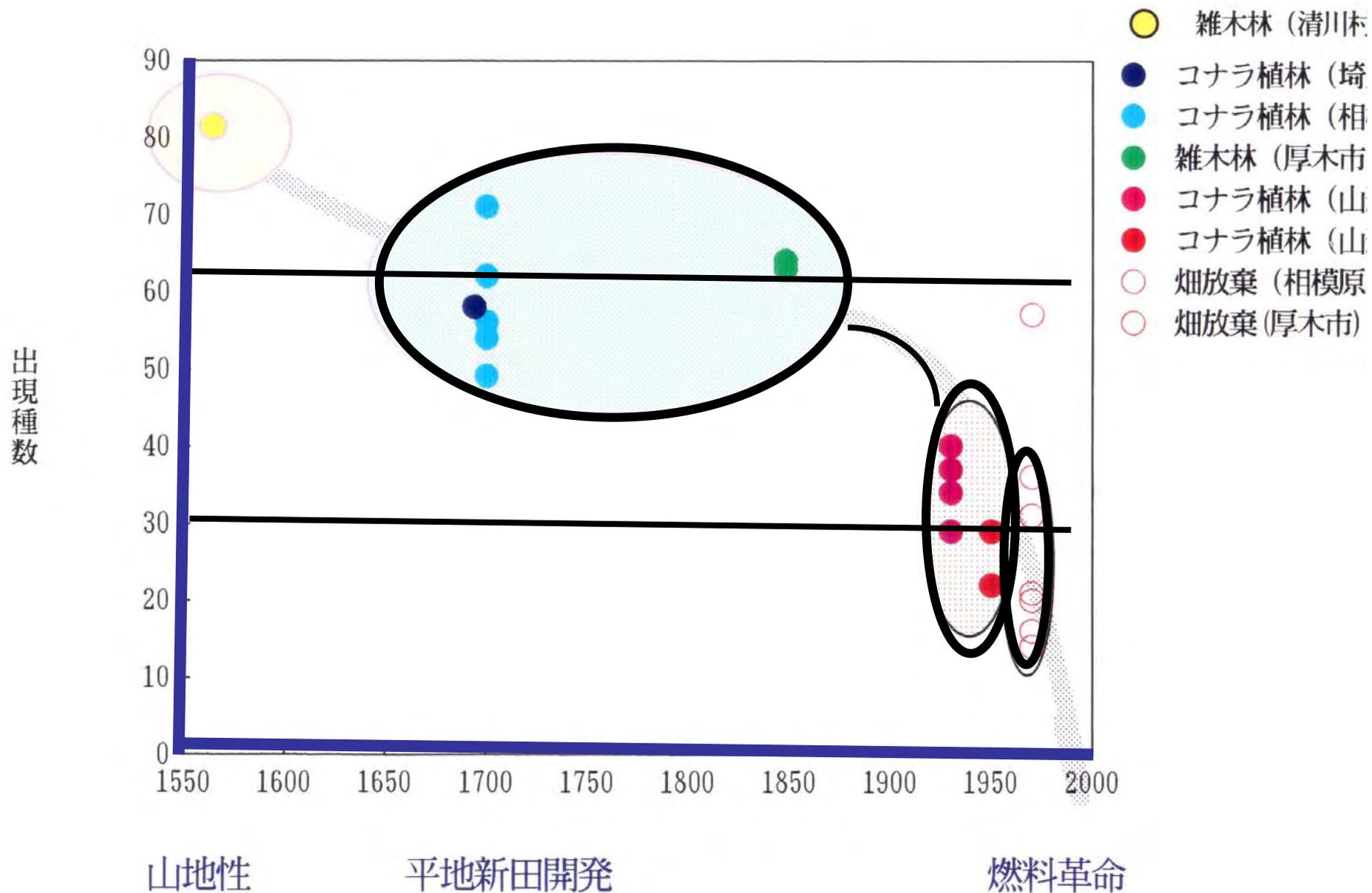




(埼玉県三芳町三富新田での事例)

雑木林利用（経営）の背景

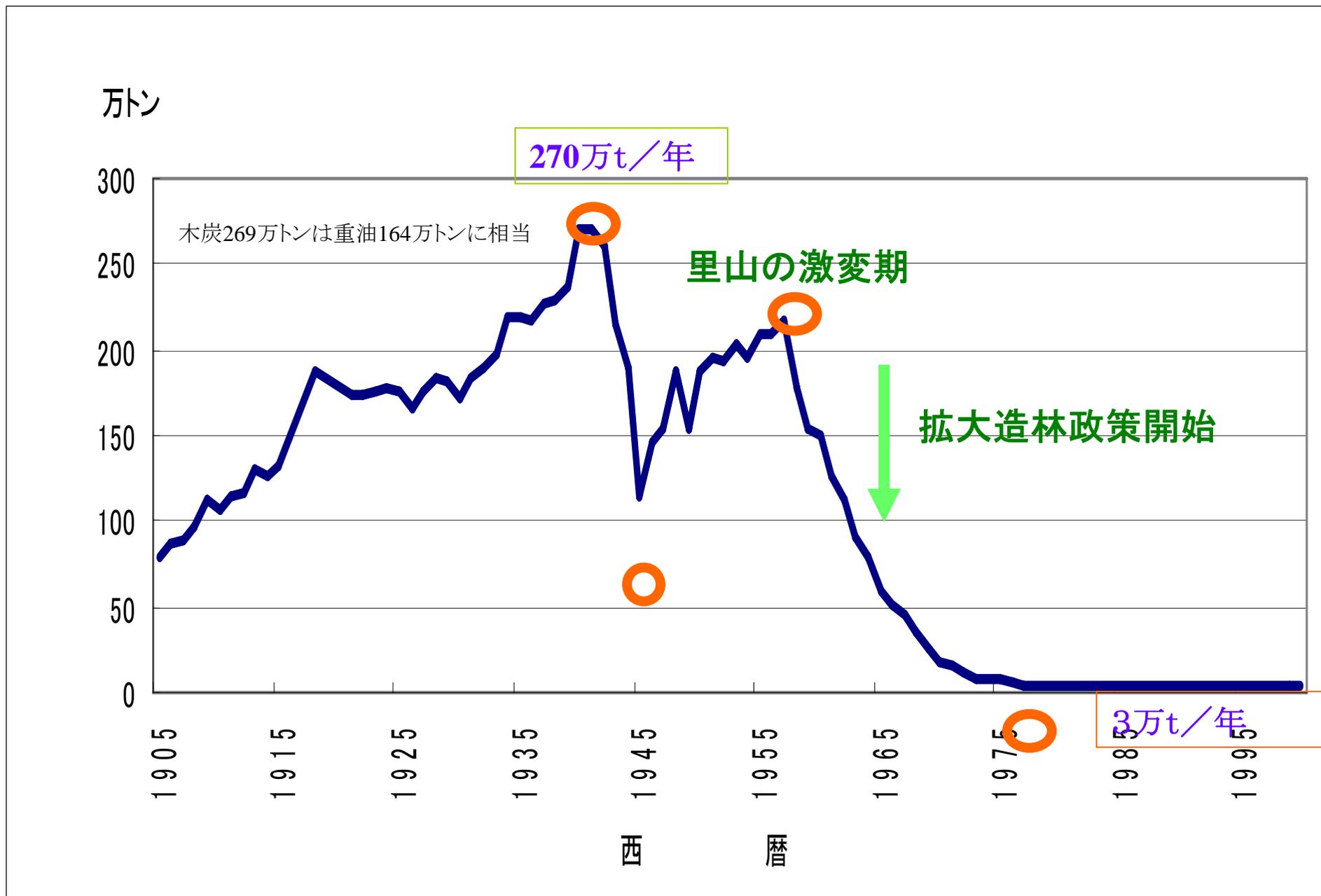
多様性のある森林になるには時間がかかる



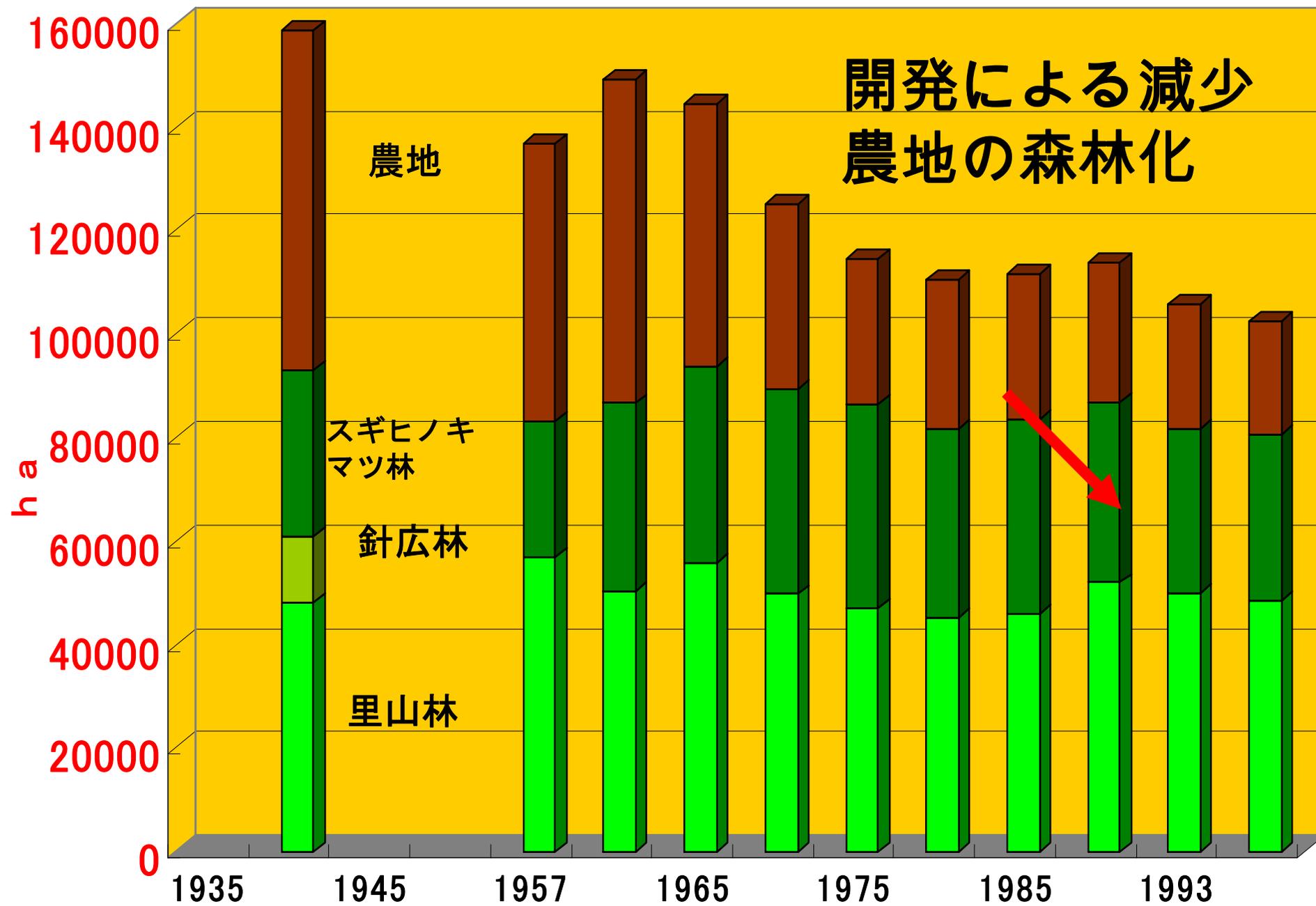
近世 江戸周辺地域の新田開発と里山作り(17~18世紀)



江戸の消費を賄う農業団地造成:新田開発



木炭生産量から見た里山の利用変化（1905－2007）
近年の生産量は最大年の1%



神奈川県における1940~2000年 農地と森林面積の推移